

2015年度 図書館展示 12-1月



2015年12月16日(水)~2016年1月21日(木)



企画
場所

国立音楽大学附属図書館広報委員会
図書館ブラウジングルーム



はじめに

1969年に竣工の4号館(大学院・図書館棟)は46年経った今年2015年に耐震改修工事が行われました。それに合わせて図書館の大規模なリニューアルが行われ、新しく生まれ変わることになりました。今回リニューアル前の最後の展示として、ありし日の図書館の姿や図書館が作成した書誌等を展示いたします。

展示資料

<パネル>

ラウンジ

現在のAV資料室のグループ視聴室の辺りです。今では考えられませんが、灰皿もあります。(1973年頃。施設案内より)

試奏室

1階には試奏室がありました。防音の個室にアップライトピアノが1台。図書館で借りた楽譜を試しに弾いてみる事ができたのです。(1973年頃。施設案内より)

第一視聴室

現在のAV資料室の個人視聴卓とグループ視聴卓の辺りです。AVカウンター奥の調整室から流されるFM放送、編集テープ等を聴くことができました。(1973年頃。施設案内より)

カウンター

2階のカウンターです。現在とあまり変わっていませんね。カウンターの手前にはロッカーがあり、開架閲覧室(現在の参考図書室)に入る際にカバン類を預けるようになっていました。(1973年頃。施設案内より)

参考閲覧室

現在の参考図書室で、キャレルがある辺りが開架閲覧室、事典類や画集、雑誌コーナーがある辺りが参考閲覧室と呼ばれていました。(1973年頃。施設案内より)

自由閲覧室

この頃は専ら自習室として使われていました。(1973年頃。施設案内より)

カードボックス

2階のカウンターの横には図書館資料目録のカードボックスがあり、利用の度に目録カードから資料の請求記号を請求票に書き写してカウンターに提出していたのです。(1977年頃。施設案内より)

レコードカードボックス

レコードの目録カードは作曲者名目録、演奏者目録、分類目録の3種類に分かれていました。(写真は1982年頃)

開架レコード

レコード視聴卓の側には開架レコードの棚があって、試験曲や授業、レッスンに必要な曲のレコード1500枚程が配架されていました。(写真は1982年頃)

返却カウンター

この時期、返却カウンターは入口に一番近い場所にありました。2011年に現在の場所に移動しました。(写真は1980年頃)

ブラウジング・ルーム

現在と新聞・雑誌のラックの位置はあまり変わっていませんが、ソファ等はすっかり変わっています。(写真は1980年頃)

自由閲覧室

この時期、自由閲覧室の机には利用者同士の視線を遮るための仕切板が設置されていました。仕切板は2000年に撤去されました。(写真は1980年頃)

参考図書室

参考図書室内のレファレンスカウンターです。当時、外部利用者の登録はこちらで行われていました。(写真は1980年頃)

AVカウンター

1階のAVカウンターです。カウンターの上にあるのは視聴卓の座席札で、視聴卓を利用する前に座席札を取り、終わったら返すことになっていました。試験前等には満席になり順番待ちの人が並んでいました。その後利用が少なくなったため2010年に座席札は廃止されました。(写真は1992年頃)

レコード視聴室

1973年頃の第一視聴室がこの頃にはレコード視聴室に変わっていて、レコードの視聴ができるようになりました。写真右の人が半透明のトレーを開けてレコードの交換をしています。また、視聴卓の左上にCDプレーヤーが着けられていてCDの視聴もできるようになりました。(写真は1992年頃)

ビデオコーナー

現在のAV視聴室AV視聴卓G席の辺りです。ここで、Uマチック (VHSではありません!!) のビデオテープの視聴ができました。その後、VHSビデオテープへの切り替えが行われて行きます。(写真は1992年頃)

AVOPACコーナー

1995年にカード目録に代わってOPACが登場します。まだモニターがブラウン管であることが時代を感じさせます。

(写真は1995年頃)

文庫コーナー

「現在の自由閲覧室の文庫コーナーの写真？新書がある！」実は2003年までここに「文庫・新書コーナー」があり手続なしで利用できたのです。現在の文庫コーナーは「2代目」だったのです。(写真は2002年頃)

全集叢書楽譜目次集コーナー

2階カウンター前の全集叢書楽譜目次集のコーナーです。この書架は2006年に現在のものに交換されました。

(写真は2002年頃)

<図書館作成書誌等について>

図書館では1975年より館内研修の一環として日本人音楽家の個人書誌作成等の課題が館員全員に振り分けられ、グループ作業による研修が行われ、その後業務の一環として書誌作成作業が行われました。また、ゼミガイダンスで使用するため、学生のレポート作成のための手引き等を作成しました。今回の展示では、こうした活動の成果として刊行された書誌等の一部を展示しました。

『児島新コレクション目録』

立川：国立音楽大学附属図書館, 1985

請求記号●C8-762、他

ベートーヴェンの研究者故児島新氏の寄贈資料の目録。

編集：屋部操・市川利次。

『滝遼一文庫目録』

立川：国立音楽大学附属図書館, 1985

請求記号●C9-757、他

中国古代音楽の研究者故滝遼一氏の寄託資料の目録。

編集：河田篤子・北島達雄・染谷周子。

国立音楽大学附属図書館柴田南雄書誌作成グループ編『柴田南雄』(人物書誌大系；18)

東京：日外アソシエーツ, 1987 請求記号●C45-378、他

作曲家柴田南雄(1916-1996)の1987年5月までの作品・著作・参考文献目録。レコード(CD)一覧、年譜収録。編集：小関康幸・西阪多恵子。

国立音楽大学附属図書館入野義朗書誌作成グループ編『入野義朗』(人物書誌大系；19)

東京：日外アソシエーツ, 1988 請求記号●C45-805、他

作曲家入野義朗(1921-1980)の作品・著作・参考文献目録。年譜収録。編集：杉岡わか子・杉本ゆり・松原加代子。

池内友次郎書誌作成グループ編

『池内友次郎書誌』

立川：国立音楽大学附属図書館, 1988

請求記号●C46-253、他

作曲家池内友次郎(1906-1991)の1988年6月までの作品・著作・参考文献目録。年譜収録。編集：小林紫里・佐藤靖子・曾根雅俊。

国立音楽大学附属図書館池内友次郎書誌作成グループ編集

『池内友次郎書誌改訂目録』

立川：国立音楽大学附属図書館, 1994

請求記号●C59-450、他

1988年刊行の書誌に、刊行以降作成された資料140点あまりを追加し改訂刊行。編集：曾根雅俊。

国立音楽大学附属図書館高田三郎書誌作成グループ編『高田三郎』(人物書誌大系；31)

東京：日外アソシエーツ, 1995 請求記号●C60-227、他

作曲家高田三郎(1913-2000)の1995年2月までの作品・著作・参考文献目録。年譜収録。編集：市川利次・平尾民子。

国立音楽大学附属図書館・現音ドキュメンツ作成グループ編

『ドキュメンタリー新興作曲家連盟戦前の作曲家たち：1930-1940』

立川：国立音楽大学附属図書館, 1999

請求記号●C63-843、他

日本現代音楽協会の前身である新興作曲家連盟の1930年から1940年までの活動を年代順にオリジナル資料を中心に雑誌、新聞等に掲載された記事で構成した資料集。年表、作曲家連盟員、関係外国人の略歴等を収録。編集：染谷周子・杉岡わか子・三宅巖。1999年雄松堂書店主催第2回ゲスナー賞銀賞受賞。

国立音楽大学附属図書館閲覧参考部ガイダンス担当編『論文作成のための資料案内：音楽教育を中心に 改訂第3版』

[立川]：国立音楽大学附属図書館, 2005

請求記号●J105-892、他

学生が論文やレポートをまとめる際の手引きのひとつなることを目的に作成。執筆：大関学・小関康幸・屋部操・市川啓子。

国立音楽大学附属図書館編

『貴重書解題目録：国立音楽大学附属図書館所蔵』

[立川]：国立音楽大学, 2007 請求記号●J110-621、他

当館所蔵の貴重資料の内、学術的価値の高い30点の写真付き解題目録。国立音楽大学創立80周年(2006)記念出版。

<「収書案内」から「ばるらんど」へ>

「収書案内」は、1971年に図書館が新規に購入受入した資料（本・楽譜・レコード）を利用者へ紹介する小冊子として刊行されました。1976年11月に刊行された「収書案内」46号より、今までの収書案内に資料案内記事や気軽な読み物を加える形に内容を変更し、誌名を「ばるらんど」に変更しました。「ばるらんど」という名前は、イタリア語の発想標語（parlando）（談話するように）から取りました。表紙のイラストは当時図書館員だった甘粕彩子さんのもので、218号（2000年1月）まで巻頭を飾りました。刊行頻度も83号（1981年1月）より月刊となりました。

当初、収書案内と一緒にあった形態も、記事の部分が增えることにより、150号（1989年1月）より、「ばるらんど」と「収書案内」は別々に刊行することになりました。「収書案内」はOPAC端末の普及に伴い180号（1994年3月）を持って終刊となりました。一方「ばるらんど」は現在、刊行頻度を年4回としつつ刊行を続け、内容も先生へのインタビュー、学生からの資料紹介などを加えて、現在、289号（2015年11月）が刊行中です。

<目録カードについて>

現在資料の検索に使われているOPACが稼働する前は、目録カードで資料の検索が行われていました。目録カードは、作曲家、曲名、分類、作品番号等のいくつかの種類に分かれて配架されていました。資料の請求記号はカードの左上に記載されており、利用者はその請求記号を請求票に書き写して受付カウンターに提出し、カウンターから書庫出庫していました。

資料の在庫状況が確認できるようにする、目録カードから請求票への記入の際の手間と書き間違いを省くために、現在はOPACから直接書庫への出庫ができるようになりました。

●展示パンフレットは図書館ホームページからも入手できます。（バックナンバーも公開しています。）

<http://www.lib.kunitachi.ac.jp/tenji/tenji.htm>